

# 白山麓の標識されたニホンザルの行動圏

林 哲 石川県白山自然保護センター

## THE HOME RANGE OF JAPANESE MONKEY BANDED AT THE FOOTHILL OF MT. HAKUSAN, ISHIKAWA PREFECTURE.

Testu HAYASHI, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

### はじめに

ニホンザルの農作物被害に対処するため、石川県白山自然保護センターでは平成2年度から6年度までの5年間、白山麓の吉野谷村や尾口村などの集落に出没して被害を与えるニホンザルの動態について調査を行ってきた。この調査の一環としてサルを捕獲して発信器を装着し、被害の予察や群れの移動等を掌握してきた。

作物被害を防除するためには、被害作物や被害の程度など被害機構の解明とともに、群れ数、個体数、行動、移動（経路）等ニホンザルの基礎的な生態的調査は不可欠である。

このような趣旨から、この5年間に13頭を捕獲し、発信器を装着して調査を行い、群れの行動圏等を調査してニホンザル個体群の管理に寄与してきたところである（三原・野崎，1994）。

平成7年度は、集落周辺に出没する群れの動向を掌握し、継続的に群れをモニターするため受信が可能な個体について追跡し、行動域を推定した。

本調査は、野崎英吉、茨木友男、栗原智昭、海崎

夏樹の各氏の協力を得て行い、本文は滝澤均氏に校閲を願った上で、有益な助言をいただいた。各氏に謝して御礼申し上げます。

### 調査地—測定地及び調査方法

調査は、1995年5月から1996年1月までの9ヵ月間のうち23回（日）実施し、2,370分間調査した（付表）。観測地点は、尾口村の一里野高原スキー場ゴンドラ山頂駅や瀬女高原スキー場ゴンドラ終点及び白抜山など受信しやすい地形上のポイントを選定し、概ね8地点で調査したが、群れの動向によってはその都度受信操作を行い調査した（図1）。

調査方法は、ラジオテレメトリー法により行い、指向性手持ちアンテナ（八木アンテナ製）で方向を探索し、2点以上で測定点を取った。受信機はユピテル社製マルチレシーバー（MTV-7100）を使用した。発信機は予め三原・野崎（1994）が、ATS社（Advanced Telemetry System, USA）製首輪発信機を装着していたものである（表1）。

表1 標識個体の特徴

個体名	性	令	※捕獲日	捕獲場所	捕獲時の所属群	発信周波数 (MHZ)	主な行動域
ダンダイ	雄	成	1992. 3. 7	吉野谷村木滑	タイコA1-1	144.430	高倉山周辺 委細不明
ソロ	雄	成	1992.11.30	中宮	オダニA2	144.530	雄谷右岸域、高尾谷、ヒコ谷 クキ谷、スキ谷、荒谷
セミシチ	雄	成	1994. 1.28	尾口村瀬戸野	タイコA2	146.545	目附谷、アカコ谷
カーブ	雄	成	1994.10.17	吉野谷村中宮	オダニA	147.047	雄谷右岸域、高尾谷、ヒコ谷 クキ谷、スキ谷、荒谷
デコ	雌	成	1994.10.22	尾口村東二口	タイコA4	146.652	女原、仏師ヶ野、木滑

※ 捕獲、発信器装着は、野崎英吉、三原ゆかり（石川県白山自然保護センター職員）が実施。

## 結 果

### 1. 受信個体の動向

調査は、受信可能な5個体について行ったが、個体の動向が判明したのは4個体であった。以下にその個体について記述する。

#### (1) ソ ロ

1992年11月30日に吉野谷村中宮で捕獲・標識され、捕獲時は、オダニA群に所属していたオトナオスである。その後単独で(1993年7月及び8月)行動していたが、1994年2月にはオダニA2群に

所属していた(三原・野崎, 1994)。本調査により、9回(日)の測定点を得たが、9月から11月の7地点は雄谷右岸域(高尾谷, ヒコ谷周辺)から尾添川右岸域(タキ谷, スギ谷周辺)の標高約1,000mの稜線周辺で行動していたと推察される(図1)。11月下旬には尾添川左岸域(荒谷)に現れ、12月下旬には、尾添川右岸の大谷周辺に行動していることが分かった。

#### (2) カーブ

この個体は1994年10月17日に吉野谷村中宮で捕獲され、作物被害を与えていたオダニA1群(また

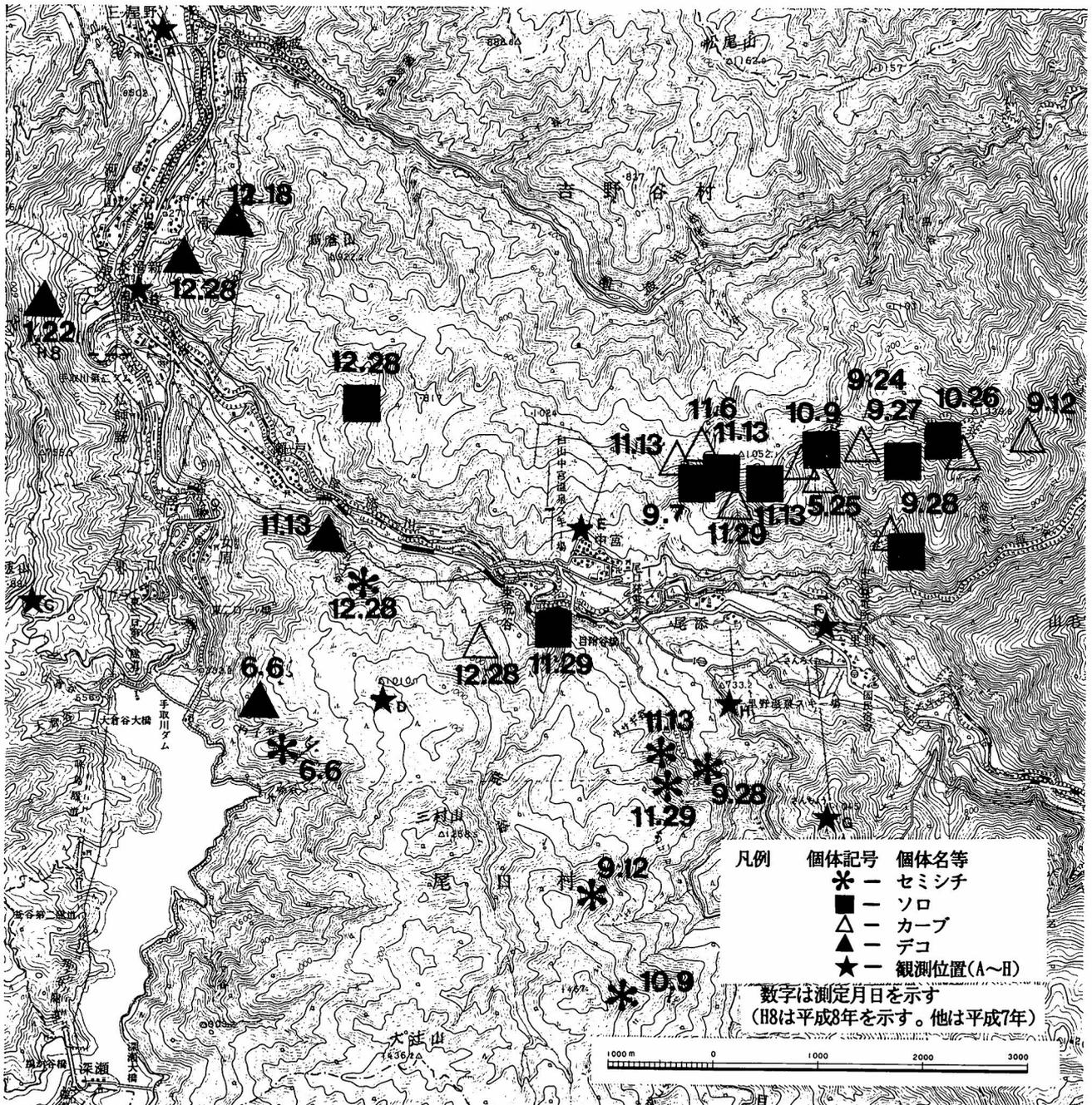


図1 ニホンザル標識個体の測定位置

地図は国土地理院発行5万分の1地形図「白峰」(平成4年発行)使用

はA2群)に所属していたオトナオスである(野崎英吉私信)。10回(日)の測定点のうち、9回(日)は尾添川右岸域の標高約1,000m周辺で行動していると推定されたが、上に記録したソロとほぼ同じ地域で確認された。12月には、尾添川左岸の東荒谷の集落付近で測定された。9月から11月にはソロとほぼ同じ箇所を受信できたので、カーブが所属するオダニA1群とソロが所属するオダニA2群の2つの群れは近接した地域で行動圏を持っていたと思われるが、12月にはこの2頭は尾添川を挟んでそれぞれが別行動していたためオダニA1群とA2群は別々に行動していたと推察される。

### (3) セミシチ

1994年1月28日に尾口村瀬戸野で捕獲され、捕獲時はタイコA2群に所属していたが、元々中宮温泉周辺に行動圏を持っているカムリA群出身の個体(雄)と言われている(三原・野崎, 1994)。本調査により、この個体の測定点は7地点であったが、5地点は目附谷左岸域から得られたものである。他の1点は手取川右岸域の杓子谷周辺と尾添川左岸のアカゴ谷周辺であった。この個体の所属するタイコA2群は初冬から厳冬期及び早春期の間は尾口村瀬戸の尾添川左岸域を利用し、夏から秋には目附谷下流域から上流域に行動圏を持っていると推測された。

### (4) テコ

1994年10月22日に尾口村東二口で捕獲され、タイコA4群の群れに所属していたオトナメスである(三原・野崎, 1994)。この個体はメスであるため群れの動向把握が容易であると思われたが、5地点の測定しか得られなかった。しかし、平成8年1月22日には、鳥越村仏師ヶ野の山地斜面にいる群れの位置を正確に捉えることができ、15頭(+)をカウントした。秋から冬のこの群れの主な行動域は尾口村から鳥越村の手取川左岸域と推測されるが、吉野谷村木滑も分布域の一部になっていると思われる。1994年1月に滝澤(1994)が調査した時のこの群れは23頭確認され、冬の分布域は概ね本年と同じ位置を示している。

### (5) その他

上に記録した他にカムリA群出身のダンディと言うオトナオス(1992年3月7日に吉野谷村木滑で捕獲・標識)を観測点Aから高倉山、または松尾山方向に2回(日)受信したが、2地点からの受信がとれなかったため、生存している個体かどうかは

把握できなかった。

## 2. 標識個体の行動圏 - 季節的移動

伊沢(1982)によれば、1970年代のタイコの群れは、夏期には「中ノ川上流域の標高1,200mから1,600mにかけての斜面に遊動している」と述べているが、現在、白山地域に生息するサルも、基本的には夏期と冬期を低山帯と山地帯に住み分けて分布しているとみなされる(上馬, 1992; 三原・野崎, 1994)。今回、捕獲標識された4頭の個体の動態から判断すれば、7月と8月にはまったく受信できなかった(付表)、4頭の所属するオダニA1、A2群、タイコA2群、タイコA4群のそれぞれの群れは、伊沢(1982)が指摘したように夏期にはそれぞれ山地帯で生息していると推測される。しかし、1995年(7月25日、吉野谷村市原の集落付近で20~30頭の群れが目撃されている。また、同年8月12日には同村木滑新で、群れによるスイカの食害が発生した-田中稔、野崎英吉私信)にはタイコA1群と推定される一部の群れが、夏期に観察されているため、夏期と冬期で住む場所を変えず、夏期に集落周辺の低山帯に居付いている群れが見られるようになったのではないと思われる。

このことは、ニホンザルの群れが集落周辺でも周年的に生息するようになっていたことを示唆するものであり、農林作物被害を防除する意味から言えば非常に懸念される状況である。低山帯で周年生息する群れが出てきた背景には山地帯の群れが高密度になっている(滝澤, 1994)ことも関係していると考えられるため、白山麓のニホンザル分布の最前線と見なされる低山帯での動態は注視される。また、里山におけるニホンザルの作物被害を未然に防除するため、今後ともニホンザルのモニタリングは必要である。

付表 テレメ装着個体のニホンザルの動態調査表

年月日	調査時間	調査場所 (受信操作 位置)	入力 有無	調査 の結果 (確認個体名)	(方向・位置)	調査者
H7.5.25	10:00~10:25	一里野・マナ沢	有	カーブ	ヒコ谷方向	林・野崎・茨木
H7.6.6	10:00~12:00 13:00~16:00	瀬女スキー場	有	セミシチ	手取ダム・五味島方向	林・栗原
		〃	有	デコ	〃	〃
		一里野 女原	無 無	- -	- -	- -
H7.6.8	16:40~17:30	女原 手取ダム	無 無	- -	- -	林 〃
H7.6.27	10:00~12:00 13:00~16:00	鷲走林道・瀬女スキー場 7ヶ所調査	無	-	-	林・栗原
H7.6.28	9:30~10:00	一里野・マナ沢	無	-	-	〃
		尾添	無	-	-	〃
H7.7.15	9:30~9:50	一里野・マナ沢	無	-	-	林
H7.7.25	9:30~12:00	鷲走林道4ヶ所調査	無	-	-	〃
H7.8.10	11:00~	一里野・マナ沢	無	-	-	〃
H7.8.21	9:30~12:00	瀬女スキー場	無	-	-	林・栗原
H7.9.7	14:00~14:15 15:00~16:30 〃	河原山	無	-	-	林
		瀬女スキー場	有	ソロ	中宮スキー場方向	〃
		〃	有 有	カーブ セミシチ	中宮・雄谷方向 中宮尾添川方向	〃 〃
H7.9.8	10:30~12:30	尾添川沿い5ヶ所	無	-	-	〃
H7.9.12	13:30~15:30	一里野林道下部	有	セミシチ	荒谷・目附谷中間	〃
		中部	有	〃	〃 (1,200~1,400m)	〃
		上部	有	カーブ	雄谷方向	〃
		一里野 目附谷橋	無 有	- セミシチ	- 荒谷・目附谷中間	- 〃
H7.9.24	13:00~14:30	一里野林道3ヶ所	有	ソロ・カーブ	ヒコ谷方向	〃
		一里野1ヶ所	有	〃	〃	〃
H7.9.28	9:30~10:45	中宮スキー場	有	セミシチ	目附谷方向	〃
		一里野・一里野林道2ヶ所	有	ソロ・カーブ	ヒコ谷方向	〃
		一里野目附林道分岐	有	セミシチ	南方方向	〃
H7.10.9	15:25~16:20	一里野・マナ沢2ヶ所	有	ソロ・カーブ	ヒコ谷方向	〃
		目附林道2ヶ所	有	セミシチ	荒谷・目附中間	〃
H7.10.13	12:50~13:00	三ッ屋野	有	ダンディー	瀬波谷北側方向	〃
H7.10.26	14:00~14:15	一里野・マナ沢	有	ソロ・カーブ	ヒコ谷方向	〃
H7.11.6	15:00~16:00	尾添	有	カーブ	中宮スギ谷方向	林・茨木
		〃	有	ソロ	〃タキ谷〃	〃
		一里野	有	カーブ	〃スギ谷〃	〃
		オメナシ沢	有	ソロ	〃タキ谷〃	〃

年月日	調査時間	調査場所 (受信操作 位置)	入力 有無	調査 の結果 (確認個体)	(方向・位置)	調査者
H7. 11. 13	10:00~12:00 13:00~16:00	瀬女スキー場上部	有	デ コ	高倉山方向	林・海崎
		〃 中部	有	ソロ・カーブ	中宮在所上方向	〃
	高倉山林道	有	デ コ	中宮方向	〃	
	一里野スキー場	有	〃	瀬戸アカゴ谷方向	〃	
	目附林道	有	ソロ・カーブ	中宮スギ谷方向	〃	
	目附谷東側斜面	有	セミシチ	目附谷東側斜面	〃	
	中宮スキー場	有	〃	目附谷方向	〃	
H7. 11. 29	14:15~15:00	中宮スキー場	有	ソ ロ	荒谷方向	林
		〃	有	カーブ	タキ谷方向	〃
		〃	有	セミシチ	目附谷方向	〃
		一里野	有	ソ ロ	東荒谷方向	〃
		〃	有	カーブ	タキ谷方向	〃
H7. 12. 18	11:00~12:00	白自センター下	有	デ コ	高倉山方向	〃
H7. 12. 28	13:30~15:20	瀬戸	有	ソ ロ	高倉山方向	林、海崎
		尾添、中宮、東荒谷	有	カーブ	尾添川左岸(荒谷)	〃
		〃 〃 〃	有	セミシチ	〃 (アカゴ谷)	〃
		瀬戸、河原山	有	デコ	手取川右岸方向	〃
		〃 〃	無	ダンデー	—	〃
H8. 1. 22	9:00~12:00 13:30~15:00	河原山	有	デコ	仏師ヶ野、瀬戸方向	〃
		〃	無	ダンデー	—	〃
	三ツ屋野、瀬波 三ツ屋野	有 無	〃 デコ	松尾山方向 —	〃 〃	
計23日	2,370分					

## 文 献

- 伊沢紘生 (1982) ニホンザルの生態。どうぶつ社。
- 三原ゆかり・野崎英吉 (1994) 白山麓におけるニホンザルの行動域 - タイコ A1 群と単独オスについて -。石川県白山自然保護センター研究報告, 第21集, 43 - 56.
- 滝澤 均・伊沢紘生・志鷹敬三 (1994) 白山地域に生息するニホンザルの個体数と遊動域の変動について - その 8 -。石川県自然保護センター研究報告, 第21集, 27 - 42.
- 上馬康生 (1992) 白山中宮道における夏期から秋期のニホンザルの分布。石川県白山自然保護センター研究報告, 第19集, 69 - 78.